



私の3冊

磯部香奈子

後輩に薦める2冊

森田秋子（編）

日常生活から高次脳機能障害を理解するー認知関連行動アセスメント

三輪書店, 2016 年

介護福祉士として、今まで高次脳機能障害という名前を聞いたことはありませんでしたが、症状に対する理解、アプローチ方法についての理解は不十分でした。この本は、高次脳機能障害の個別症状について、またかかわり方についてわかりやすく解説してくれていますので、日々のケアでどうかかわればよいか悩みを抱えている介護職の方にお勧めです。

本田美和子／イヴ・ジネスト／ロゼット・マレスコッチィ

ユマニチュード入門 医学書院, 2014 年

「認知症」についてたくさんの研修を受けてきましたが、この1冊で認知症ケアについて考え方が変わりました。相手の話を否定しないのはもちろんですが、ケア時に重要となる「見る・触れる・話す・立つ」という4つの技術について詳しく記されています。認知症者だけでなく、ケアが必要なすべての方に活用できる技法が載っています。ケアの現場に1冊あると、ケアの質が変わっていくのではないかと思います。

自分の1冊

栗城史多

一歩を超える勇気 サンマーク出版, 2009 年

介護の仕事とはまったく関係ない本である。この本に「夢に向かって行くとき大きな不安がある。自分の直感を信じて一歩を踏み出してください。成功の反対は失敗ではなく、何もしないことである」という一文があります。私は、それまで何をするにも先のことを考えすぎ、失敗を恐れ行動に至らない場面も多くありました。この本に出会ってから、考え方がポジティブになったとまではいきませんが、まずは一歩を踏み出す「やってみる」という考え方を身につけることができました。

■いそべ・かなこ 経験年数：16 年 医療法人社団輝生会船橋市立リハビリテーション病院教育研修部 NsCW 部門チーフ

現在、回復期リハビリテーション病院で教育研修部という部署に所属しており、研修の企画・運営を行っています。介護福祉士としての経験はまだ12年であり、知識が豊富なわけではありません。自らの学びを深めていくためにも、ケアに関する本は重要ですが、自分の行動を変えてくれる1冊に出会えることも可能性を広げられるチャンスではないかと思います。